



読書のまちかわさき

# 読書のまち・かわさき 通信

## NO45

読書のまち・かわさき事業推進委員会 会長  
川崎市教育委員会 学校教育部 指導課長

2009.12.4 発行

### こぼれ出る受賞者の笑顔・響き合う作家と子どもの言葉の呼応

11月1日は、中原市民館の大ホールで、第7回「かわさき読書の日のつどい」が開催されました。そこでは、読書活動優秀団体(個人)表彰や、画家・絵本作家である小林豊さんと市内小学生7人との交流が行われました。また、小中高生の優れた読書標語やポスターの展示も行われました。受賞者の方々の、緊張感の中にもこぼれ出る笑顔、小林豊さんと小学生との言葉の呼応が会場に響く楽しさなど、充実したひとときとなりました。

#### 小林豊さんと子どもたちとの交流なごやかに

～「読書の日のつどい」での小林豊さんと小学生の交流～

小林豊さんは、日本画家であり絵本作家でもあります。絵を描く取材で様々な土地を旅してこられたそうです。

#### “僕は何を求めて絵を描いていたのか？”

小林豊さんが自問する中で見つけ出した答えは、「人の似合う風景、子どもの似合う風景を求めて歩いていた」ということでした。会話できるネタを探して絵を描き、多くの人と出会う楽しさを味わうことを大切にされてきたそうです。

#### “今日は、子どもたちと話すことができることに、ワクワクした楽しみと期待感をもっています”

小林先生のこの言葉で、なごやかな時間が始まりました。子どもたちは作文や感想画を紹介しながら、小林豊さんの多くの絵本から感じた思いや質問を臆することなく伝えました。その一部を紹介します。



『せかいいちうつくしいぼくの村』のお話で、お父さんは大人の羊ではなく子羊を飼うのは何故かという質問です。確かに子羊は世話が大変、毛もとれず、乳もでません。しかし協力して育てれば、1年たつと大きくなり乳も出て子どもを産むことができます。つまり今利用できるかではなく、子羊には「希望」があり「希望にお金を出すということ」だと話してくれました。作家と交流することで改めて感じることでできたその思いに、子どもたちの瞳がきらめいた瞬間でした。



#### “小林さんの絵は優しい感じがします”

参加した小学生のこの言葉から、話はさらに広がっていきました。小林豊さんは「人は皆優しい。何かの都合で鬼のようになることがあるだけ。いつも人に興味や関心をも

っていると、人を好きになる。人を好きになることから、言葉や様々なものにも関心をもつようになる。関心がないとその人を嫌ったりいさかいをおこしたりすることもある。どうしたら皆と語り合えるかと考えることも大切なことなんだ」と、一つ一つの質問に誠意をもって答え、子どもたちに丁寧に語りかけてくれました。

### “絵本は幼い子どもの読み物という先入観がなくなった”

と話す小学生の言葉には、「自分の考えが言葉となって出ている。話している言葉や声に力があっていいね」と子どもたちの感覚に感心される場面もあり、あっという間に時間が過ぎていきました。もしかすると子どもたちの方が多くの本にふれているのかもしれない、そう感じずにはいられないほどしっかりと質問や受け答えに、会場にいた人々が魅了された時間でした。

“絵にはその先があり、また、その場면을形作っている周りがある。周りがあるから絵に描きたいと思う気持ちがさらに沸いてくる。しかし、同時に絵に描けなかったところを文にしていくと、絵本になる”と、日本画家であり、絵本作家でもある自分について、最後に話してくださったのも、とても印象深く、心の琴線に響く言葉でした。

#### ＝読書活動優秀賞受賞団体(個人)紹介＝

- ・ 奥本恵美子さん
- ・ 尾高勇雄さん(南河原小学校図書ボランティア)
- ・ おはなしの森
- ・ 中野島小学校図書ボランティア
- ・ 読み聞かせボランティア MENDORI



#### ＝小林豊さんとの対話への参加者紹介＝

- ・ 南百合丘小学校5年、塩野晴さん
- ・ 南百合丘小学校5年、蜷川舞さん
- ・ 平小学校6年、佐野菜子さん
- ・ 平小学校6年、野崎絢乃さん
- ・ 岡上小学校5年、森嶋大晴さん
- ・ 岡上小学校6年、五十嵐紗英さん
- ・ 岡上小学校6年、石川加那子さん

#### お知らせ掲示板

第2回全市ボランティア研修会開催  
1月28日(木)午前10時～12時  
麻生市民館大ホール  
『ことばによって育てられる大切なもの』  
～子どもが大好きな絵本に秘められた力～  
講師 佐藤秀和さん  
問い合わせ 川崎市教育委員会指導課 200-3243

#### <佐藤秀和さんひとくち紹介>

1966年、創作絵本のこぐま社を設立。  
2009年までの43年間に、『11ぴきのねこ』シリーズ全6巻、『こぐまちゃんえほん』シリーズ全15巻、『わたしのワンピース』など196冊の絵本やその他の書籍を多数出版する。こぐま社会長、財団法人東京子ども図書館監事。  
1928年生まれ。